

# 錯誤捕獲に係わる問題点とその対応

株式会社 野生動物保護管理事務所  
中島 彩季

## 講演要旨

全国各地でクマの錯誤捕獲が問題視されている。錯誤捕獲が発生すると、個体や生態系への影響が懸念されるだけでなく、捕獲者や放獣作業員、通行人などとの事故リスク、捕獲者の捕獲意欲の低下といった問題が起こり得る。ここでは、クマの錯誤捕獲の現状や、放獣作業の流れや関係者の役割分担を説明するとともに、放獣作業を実施するための体制整備や事前準備、錯誤捕獲のリスクと予防について解説する。

### ■クマ錯誤捕獲の現状

西日本6府県では、クマの錯誤捕獲が増加傾向にある。また、くくりわなでの発生割合が多くなっている。ただし、錯誤捕獲は報告義務がなく、全国的には発生状況を正確に把握できていないことが課題として挙げられる。

### ■錯誤捕獲個体の放獣作業と体制整備

錯誤捕獲された個体を安全に放獣するためには、知識と技術を有した人材の確保および実施体制の整備が不可欠である。また、予め放獣場所を調整しておくことも重要である。放獣作業を始める前には、関係者間で作業内容の確認や役割分担の確認をしっかりと行い、責任者の指示に従って作業にあたることが求められる。ここでは、放獣作業の流れを紹介するとともに、放獣対応に求められる人材や実施体制を整備するための留意点を解説する。

### ■錯誤捕獲の危険事例と予防対策

錯誤捕獲のデータを蓄積することで、くくりわなでは、捕獲から日数が経過するほど拘束部の損傷度は悪化し、脱落リスクが上昇する可能性が示された。また、複数回錯誤捕獲された個体からは、くくりわな拘束部や箱わなで受傷した歯や顎の治癒経過が観察された。データから示されるリスクや、わなの種類別の危険事例、子グマが捕獲された場合の注意点を紹介するとともに、錯誤捕獲を予防するための対策や錯誤捕獲発生による人身事故を予防するための対策についても解説する。